

幼稚園教育課程の実践的研究

— 幼児の成長体系を求めて —

大津市立長等幼稚園

当幼稚園教育課程（長等幼稚園プラン）の構成の立場

— 成長の体系（成長課題）をもとめて —

私たちは、三年間の「あそびの指導」についての実践と研究から、いろいろな経験をし、いろいろなことを学ぶことができたのであるが、その帰するところは、私たち教師一人ひとりのきびしい人間観（幼児観）への反省とその確立であり、幼児教育観の再発見ともいえると思う。

そして具体的にはそれにもとづく、教育計画の確立への足場をどこに求めたらよいのかということであった。つまり、私たちが教育実践の中でその指導の計画や指導について反省評価するとき、はたして幼児自らが意欲的に遊び方（「学び方」ともいえる）を工夫し発展させていくような人格が成長するような教育計画であったかど

うか、謙虚に真剣に反省してみなければならぬということである。

すなわち、幼児たちの一つ一つの活動や経験がはたして、幼児自身の自発的、創造的、協調的な人格の成長から見て、それぞれ意味や価値があったらどうかというきびしい自己反省である。

まず一年保育期間の過程において、幼児の物や人に対する見方、感じ方、考え方がどのように成長していくかを考え、幼児たちの成長の課題を軸として指導目標とその活動内容をおさえようとした。

このことをいまずし具体的に考えてみると、幼児が活動しようとするということ、教師のもつねらいがうまく調和すれば幼児自身も興味をもってあそびが発展し、幼児たちの活動が中広くなり健全な成長がみられると思う。それに対して、あまりにも不調和であれば幼児自身がめざす自己実現の可能性をも十分に発揮できないだろうとお

成長体系(成長課題)表
(4月～7月)

期間	おもな見方, 感じ方, 考え方	成長課題
一 入園 二 週 初 週 間	<ul style="list-style-type: none"> ○幼稚園のある物は何でも使っていいのだろうか。 ○自分の位置をはっきりさせたい。 ○物の使い方を知りたい。 ○あそんでほしい。 	○よりどころを求めている。
三 週 間 ～ 五 月 上 旬	<ul style="list-style-type: none"> ○何でもふれてみたい。 ○眼にふれたものを使ってあそぶ。 ○美しいものや目新しいものにどびつく。 ○遊具や材料などをひとりじめにしたい。 ○近所や座席に近い友だちとあそぶ。 ○自分であそび場所を選ぶ。 ○何かあそびを見つけたい。 	○自分を守りながら, 何かしてあそぼうとする。
五 月 中 旬	<ul style="list-style-type: none"> ○身近にある遊具や材料を何かにみたくてあそぶ。 ○自分のやりたいことを思い思いにしながらごっこあそびをする。 ○遊具を早く使いたい。 ○虫などを捕ったり集めたり歩かせたりしてあそぶ。 ○ほしい材料を自分で探したり教師に求めたりする。 	○自分のほしいものを求めながら, 自分のやりたいことを思う通りにしようとする。
五 月 下 旬 ～ 六 月 上 旬	<ul style="list-style-type: none"> ○高いところへ登ったり, とんだり, 大きなものをころがしたりする。 ○暗い所や低い所へはいったり, くぐったりする。 	○まわりのものになれ, 自分にもできるかためしてみようとする。
六 月 中 ～ 下 旬	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のやりたい仕事のできる役を求める。 ○あそぶ場所の広さや遊具の数などを理由にして, 仲間に入れようとしなないことがある。 ○水をなぶる。 ○水を容器に入れたり色水を作ったりしてあそぶ。 ○泥土を掘ったり, 泥水を流したりして川や道などを作ったりあそぶ。 ○水たまりに入ってあそぶ。 ○気心や能力の合った友だちとあそぶ。 	○自分と気心や能力などの合った友だちを見つけてあそぼうとする。
	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の言いたいことやしたいことを一方的に言いながらあそぶ。 ○音楽にあわせて, 歌ったりおどったりする。 ○いろいろな絵本がみたい。 	○自分が表現したいことを進んでしようとする。
七 月	<ul style="list-style-type: none"> ○多くの友だちといっしょにあそぶことをのぞむ。 ○遊具を早く使いたいが友だちと同じように使った方がよいと思う。 ○間違っていると思うことをしないよう他人に言う。 ○自分たちであそび方をきめる。 ○リーダーの役づけにしたがって, ごっこあそびをする。 	○数人であそぶことに興味をもち始める。
	<ul style="list-style-type: none"> ○草花を摘んできて飾る。 ○いろいろなき方を工夫して絵をかく。 ○いろいろな遊具や材料で工夫して大きなものを作り, それを使ってごっこあそびをする。 ○水の中へ入ってあそぶ。 ○いろいろな材料で工夫しながら, 何かを創る。 ○ボールをなげたりとぼしたりする。 ○紙ひこうきなどがどうしたらよくとぶかのためしてみる。 	○目的をきめて工夫しながらあそぶ。

もわれる。こうした不調和をできるだけ最小限度にしていく努力が幼児教育にたずさわるものの一つの責務でもあり、今日の課題でもあるとおもう。こうした仮説にたつて実践し研究してきた幼児の成長課題についての試案はけつして充分なものではなく、まだまだ吟味しなければならぬとおもっている。私たちは本年度四月入園当初より七月までの一学期間、私たちがありのままにとらえた具体的なあそびの事例を通して幼児の物や人に対する見方、感じ方、考え方などから、幼児の内面的なものをできるだけ理解しようところをみた。

私たちはこうして幼児の内面的な世界の理解につとめているうちにその成長が次第に明確になり、更にいくつかの成長段階にまどめすることを発見したのである。これらの研究はまだまだその中間であり、こうしてあみだした成長課題をふまえて指導の目標を立てると共に幼児活動のよりよい発展を考慮しつつこれを援助することに努力しつつあるのが現状である。こんごもこうした成長課題に検討を加えると共に、更に幼児たちのよき自己実現を可能ならしめる教育の充実を期したいと念願しているのでこの立場と考え方や実践などについての御批判と御指導を切におねがしいたいものである。

幼児の成長を追って

—成長の体系がみられた事例と「幼児の見方・感じ方・

考え方」—

〔入園当初〕二週間

・幼児のすがた

〔事例一〕ままごと道具

ままごと道具の箱を二箇所に出す。その側にごぎも二、三枚出しておく。女児二、三人と男児一人そのあたりをいったりきたりしている。T「これを使ったかったら、使ってもよいのよ。」お互に顔を見合せてにやつとわらったり、赤面してうつむく。教師ごぎを一枚のばし、ままごと道具箱のふたを開いてみる。(一八)と(一九)そばまよってきて、中をのぞく。(二〇)ごぎの上に座り道具を全部出し、一つひとつ並べはじめる。(二一)(二二)の二人も近寄ってきて、ままごと道具をなぶり出した。

〔事例二〕色板

色板を男児三人がなぶっている。そこへ男児(八七)来る。(八七)「ワーア、先生に言うたろ。そんなんなぶったらあかんど。」(三)「オイ、幼稚園にあるものは、何でも使ってもよいのやで。」(五)「そうやねえ。先生ちつともおこらはらへんど。」教師のいるのに気づいたみんなは、一斉に教師の顔を見る。T「よく知ってるね。幼稚園のものは、何でも使ってよいのよ。仲よくあそぼうね。」男児みんな「ハイイ。」元氣な返事をする。

・見方・感じ方・考え方

(1)これは何だろう。

(2)黙って使ってはいけない。

(3)貸してほしいけどなあ。

(4)貸してもらっていいのだろうか。

(5)幼稚園の物はみんなつかってよいのだろうか。

・まとめ

幼稚園にあるものは何でも使っているのだろうか。

〔事例三〕不安なB子(三)

入園して三日目の朝(六)は母親と登園した。母親にかばんを持ってもらって、園庭の築山をのぼったり、降りたり、一人あそびをしている。T「かばんを自分の場所へかけてきましようか。」と言うとそばの母親が「『下駄箱やかばんをかける場所がわからないのでもし違ったらかなわんし、腰かけもよその人が腰かけてたら困るから庭にいるのがよい。』と申しますので……。」と心配そうに言われた。

・見方・感じ方・考え方

(1)自分の場所がはっきりわからない。

(2)自分の場所をもし間違ったらどうしよう。

(3)自分の場所を友だちが使ったら困る。

(4)みんなと同じようにできなかつたらどうしよう。

(5)いじめられないだろうか。

・まとめ

自分の位置を安定させたい。

〔事例四〕便所の場所

(三〇)(三六)(四六)の女児三人が話し合いながら園庭から走って来る。
(三〇)「先生あそこにいやはるわ。」三人が教師のそばまで走って来ると、(三〇)「先生、おしっこしたいけど、どこですの。」T「こっちよ。」便所につれていく。用便をすませた(三三)(四六)はにこにしながら、待っていた(三六)のところへ来て、(三三)「アアよかった。すーっとした。」(四六)「どこやわからへんし、どうしようおもたなあ。」三人はまた園庭に出て行ったが途中で出会った(四六)に、(二六)「お便所へ行きたいのとちがうか。お便所やったら、うち教えたげるわ。」と言って場所を教えている。

〔事例五〕後かたづけ

十時過ぎ「かたづけましょう。」のレコードが聞えてきた。会集室で、ままごとをしていた(二四)「先生、あれがなつたらかたづけるのやな。」T「ええ、よく聞えたわね。さあ一緒にかたづけましょう。」(五五)「みんなかたづけるのやで。」ままごとをしていた女児(四三)(五〇)(四七)(二三)は、それぞれに、おもちゃ箱におさめている。(二四)「先生これ(ままごと道具)どこへおくの?」(五五)「先生のごきどこへかたづけるの?」T「おもちゃはこの隅へおきましょう。これからは、いつもここへかたづけましょうね。ごきはおうちのお部屋やし、先生と一緒にいこうね。」ごきそうに使った草花が散らばっている。教師等とちりとりを持ってきて置いておく。(二四)が馴れない手つきで掃き集め、ちりとりでごみをと

った。T「御苦勞さんでした。帚とちりとりは、ここへ戻すのよ。」と一緒にかたづけに行き、それぞれの場所を教える。

・見方・感じ方・考え方

(1)幼稚園の便所などはどこだろう。

(2)あそんだ後の遊具は、どうするのだろうか。

・まとめ

物の使い方・扱い方を知りたい。

〔事例六〕あそんでほしいS子(一六三)

登園してきた(一六三)は部屋の入口に立っている。T「(一六三)ちゃんきのうのお友だちの(一六六)ちゃんは？」(一六三)だまって首を振っている。T「どこへいかはったやろうは。先生と一緒にさがそうか。」

(一六三)を連れて(一六六)をさがしに行く。花つみをしている(一六六)の姿を見つけたので、T「(一六三)ちゃんのところへつれて行ってあげようか。」と聞くとすぐ「うん」とうなずいた。(一六六)のところへ行つて。「(一六三)ちゃんきやはったしあそんであげて。」と言つと(一六六)「おいでお花つんでるの。ほれこれだけとつた。」と見せてくれた。

(一六三)もすぐうれしそうな顔をして草花を摘み出して、とつた花をさかんに(一六六)に渡している。

〔事例七〕いたずらをするA児(四三三)

(四三三)(蓋)(二二〇)(三三〇)の女兒五人が園庭のごぎの上でままごとをしている。側にもう一枚ごぎが敷いてある。その上に(四三三)の男児

がすわって、地面の砂を集めては、ままごと道具にかけている。二度目に砂をかけた時(三三〇)「先生、この人砂かけはるわ。怒りー。」

(四三三)「まげて言うてるのにまげてくれはらへんにや。」(五四三)「先生お茶碗が五つやろ、お皿も五つしかないしあかんにや。」(四三三)「ないでもかまへんし、まげてくれ。」(三三六)「ほな、入りいさ。」(蓋)

「まじりいさ。」(三三〇)は庖丁でなっぱを切りながら「(四三三)ちゃん、

あんたお父さんになりいさ。」(四三三)「うんお父さんけ。」(四三三)「お

父さんは、お店の用事で自動車を運転していかはんのやぞ」と早速出かけていった。

○見方・感じ方・考え方

(1)あそんでほしい。

(2)友だちがほしい。

(3)同じことをしてあそびたい。

○まとめ

あそんでほしい。

〔事例八〕記録写真

参観人の王先生。こどもたちの作品を机の上に並べて、カメラにおさめようと準備される。カメラを向けて、今にも撮ろうと構えられた時、入口から入って来た(九五)、ただ何となく作品にふれると立てかけてあるけずりあそびの三角板を持ち上げる。T「ちよっとなぶらないでね。」教師、並べなおすと王先生もカメラを構えなおさ

れる。そこへまた、(二七)(二八)二人の男児が入って来て、カウボーイの罐人形を持ち上げると何か話をしながら横へ置く。次々と入って来ることもたちの殆んどが、並べてある作品にふれるのを見て、王先生「だめね。もういいわ。」写真をあきらめて立ち去られる。

〔事例九〕素材

保育室の片隅におかれている素材(瓶のふた、空瓶、空箱、布切れ、包装紙など)を三人の男児がさわりながら話している。(一六)「これ牛乳のびんのふたやなあ。うち(家)にいっぱいいためたるわ。めくりするのや。」(一五)「ぼくも牛乳、毎日とってるし、だいふためたわ。」(一五)「これマーブルチョコの箱や、煙突みたいやね。」(一五)「これ穴あけたら、望遠鏡になるわ。」(一六)「そうや、このキヤラメルキヤラメルの箱やら積んで、自動車できるわ。」と次々にいろいろなものにふれながら話し合っている。

○見方・感じ方・考え方

- (1)何となくふれてみたい。
- (2)これは何だろう。
- (3)おもしろそうなものだなあ。
- (4)これ知ってるわ。
- (5)さわってもいいかしら。

○まとめ

何でもふれてみたい。

〔三週〕五月上旬

○幼児のすがた

〔事例一〇〕ままごと(貸してほしい)

会集室の一隅にベッド、人形芝居用の枠などをおいておく。(一四六)が、「ちよっと、これ窓にせえへんか、かいてえさー。」(一五〇)「これもよいわ。赤ちゃんねやはるのに持っていこか。」と言いながら、(一五二)と枠を持って行くと、積木で形どった家の間に置く。カーテンをあけしめして、(一五三)「こまどえ。今あさやし、あけとくわ。」とだれに言うともなくいつている。

○見方・感じ方・考え方

- (1)これよいなあ。
- (2)かしてもらおう。

○まとめ

眼にふれたものをつかってあそぶ。

〔事例一一〕美しい紙

赤組の室に、包装紙、大きい色紙、金や銀の紙その他いろいろの紙を出す。(一六七)、金銀の紙を五、六枚もつ。(一六五)「先生(一六七)ちゃんあんなぎょうさんとはったわ。あかなあ。」T「(一六七)ちゃんは、それでなにかしてあそぼうと思ってるのどちがうか。」(一六七)うなづく。T「さあ、どうしてあそぼうかなあ。」(一六七)その中の一枚で飛行機を折り出す。(一七〇)「先生、これはさみで切ってもよい

か。」T「いいわよ。はさみで切つても、ちぎつても。」(七〇)はさみで切り出す。T「ワァー、きれいに切れたね。せつかくできたのやし、のこしておいて、みんなにみせてあげようか。」(七〇)はニッコリしてうなづく。T「この紙にのりではっておこうね。」と言つ。

〔事例一二〕リング雲梯

月曜日の朝、登園して来た幼児の姿をみているといつもと、どこか違うようである。始めて見たリング雲梯の為だろうか。(三三)「あれ、なんやろ。」かばんを持ったままで園庭の一隅におかれてあるリング雲梯の方を見ている幼児、かばんをおくのもそこそこに走って行く幼児。見ている間に、リング雲梯は、一ぱい幼児たちでかこまれている。両端や真ん中から思い思いに乗ってくるので、衝突して少しも進まないし、行列は長くなるばかり。(四七)「はよいけよ。何してんにや。」とわいわいさわいである。T「真ん中から上らないで下りるところにしたら。」と言つとどうやら行列は動き出した。

○見方・感じ方・考え方

- (1)きれいやなあ。
- (2)これほしいなあ。
- (3)どうしてあそぶのやろう。
- (4)私にもできるだろうか。
- (5)何だろう。
- (6)これであそんでみたい。

○まとめ

美しいものや、目新しいものにとびつく。

〔事例一三〕鈴

(二五)(三〇)男児二人保育室の机の上に置かれてある楽器をしばらく見ていたがそのうちにさわりはじめた。ハンドカスタをカチツとならしてみたり、鈴をちょつと振つてみたりしている。(二五)「先生、これつこてもええのか。」T「いいよ。誰でも使えるのよ。」(二五)「ぼくこれにしよう。」タンバリンを両手に持つ。(二六)「ぼくはこれや。」鈴を両手に持った。鈴を振っていた(二六)は何を思ったか鈴ばかり六、七個も手に通して振り鳴らしながら走り廻る。それを見た(四四)「おい、ぼくにもかしてくれよ。」(二六)「かなん、あっちの貸りてこいよ。」自分の持っているたくさんの鈴は貸そうともしないで振りながら走り廻っている。

〔事例一四〕ぼくのブランコ

(三四)は隣のブランコをかかえながら、ブランコあそびをしている。(三六)(三六)の女児二人が走って来て「ブランコかして。」「うちものせて。」と言つても(三四)はしらん顔して乗っている。(三六)「先生。この人かしてくれはらへんね。」(三四)ちゃん、この人たちがかしてほしいと言つてはるのやけど。(三四)「これ(三八)ちゃんがつつてや、と言わはったのやしあかんのや」T「(三八)ちゃん今ここにいないでしょ。」しばらく沈黙。(三四)「ふん」不服そうに(三六)に貸してやる。(三六)「(三四)ちゃん二〇ずつでかわろな。」と言つて振

りはじめたところへ(六)走つて来る。(二)「おい、これはぼくのやぞ、乗ったらあかん。」と取り返そうとする。T「(八)ちゃんは今乗ってなかったし貸してもらったのよ。」(六)「そやかて、ぼくがとつとしたのに。」T「ぼくも今乗りたいの。」(六)返事がない。

T「乗るんだったら、かわり合つてあそんだらどうかしら？」(八)は今までまじつていた走りごっこ仲間のところへ走つて行つてしまった。

○見方・感じ方・考え方

- (1)ぎょうさん(たくさん)ほしい。
 - (2)自分のものにした。
 - (3)一人で使いたい。
 - (4)友だちに貸すのはかなん(いやだ)。
- まとめ

遊具や材料などをひとりじめにしたい。

〔事例一五〕近所の友だち

廊下で、五人の男児が丸になって何か話し合っている。その中の一人(二五)「(四三)ちゃんと(四三)ちゃんは、ぼくがこの家の近くやし、ようあそびに来るなあ。」(四三)「そうや今日も行くのや。」(二五)「(四三)ちゃんと(四三)ちゃんはぼくとこ親類やさかいやねえ。」(四三)「(四三)ちゃんと(四三)ちゃん(二五)「おまえらを泣かしよつたら、ぼくがやっつけてやるにやねえ。」そばで聞いていた(三)「ぼく何にも悪

いことしてへんで。」と心配そうに言う。(二五)「おまえらはせえへん。悪いことしたもんだけや。」こんな会話がしばらく続く。(二五)「おい、みんな積木してこうか。」みんな「ぼくもませてや。」ませてや。」と口々に言いながら会集室の方へ行く。

〔事例一六〕友だちがない

日頃元気にあそんでいる(八四)が、今日は一人柱にもたれかかつていて元気がない。T「(八四)ちゃん、どうしたの。」と聞いてみると、(八四)「私のお友だちが今日は休まはったしあそぶ人がないの。」近所の友だちの(六六)は今日欠席である。T「そうそう、(二六)ちゃん今日は休まはったし、困つたね。でも今日は違う友だちとあそぼうね。」(八四)うなづく。T「あそこに(七)ちゃんがいはるけど。」(八四)「そやけど(二五)ちゃんがいっしょにあそんではるし、かなん。」T「どうして。」(八四)「男の人はいじめはるし、かなんのだ。」T「そう、男の人はかなんの。では誰がいいの。」(八四)「あんな、(二六)ちゃんやったら、いつでもいっしょの机やし、しつてるけど……。」(八四)は(六六)となら元気にあそべるが、他には友だちがないらしい。

○見方・感じ方・考え方

- (1)自分の知らない友だちとあそびたくない。
- (2)男の子はいじめからかなん(いやだ)。
- (3)仲間入りしたいけれどいうのははずかしい。
- (4)どうして仲間入りしてよいかわからない。

(5) 保方やし(だから) いじめられても助けてもらえる。

○まとめ

近所や座席に近い友だちとあそぶ。

〔事例一七〕 ままごとあそびの場所

女児三人、ままごと道具を前にして、話し合っている。(五〇)「どこでする。」(五一)「電話のとこへ行こう。」(五二)「そやなあ、電話のとこがええな、電話が使えるし。」(五三)と(五四)はままごと道具をかつぐ。(五四)「そんなら、うちこぎ運ぶわ。」こぎを取りに行く。(五五)がまぜてほしいそうに(五六)に近寄る。(五七)「(五八)ちゃん、まぜて。」(五九)「(六〇)ちゃんにきいてみ。」(六一)は(六二)のところへ聞きに行く。

○見方・感じ方・考え方

- (1) どこであそぼう。
- (2) ここがええわ(よいわ)。
- (3) これがあるし(あるから)、ここがよいわ。

○まとめ

自分であそび場所を選ぶ。

〔五月中旬〕

○幼児のすがた

〔事例一八〕 紙つなぎ

男児(四)は、自分の保育室が一番安定するらしく、しばらく腰掛けていたが、(四一)「何かおもしろいことないかなあ。」とひとり言を言いながらうろうろと室内を歩き廻り、素材の置いてある棚から、円形の厚紙を見つけた。(四二)「先生、これ使ってもええか。」

T「はあ、使ってもいいよ。」(四三)「おくれや。」(四四)「(四五)ちゃん、それ何するもんえ。」(四六)「ぼくも知らんけど、おもしろそうなんやろ。」(四七)「ぼくにもくれや。」(四八)「(四九)ぼくにも一枚くれよ。」(五〇)「うん。」「うん。」一枚ずつわけてやる。クレパスを出してくると、(五一)のまねをしてその紙に絵をかいていた。(五二)「おい、みんなかいた絵をつなごうか。」(五三)「そやな、つないでくれ。」長くつなぎ合された紙を見て、(五四)「東京タワーができた。」(五五)「ほんまや。」みんな楽しそうである。

○見方・感じ方・考え方

- (1) 何かおもしろいことないかなあ。
- (2) 何をしてあそぼう。
- (3) どれであそぼう。

○まとめ

何かあそびを見つけたい。

〔事例一九〕 ダンボールの汽車

大きなダンボールの箱の中に、二人の男児が入って走っている。

(四〇)「ぼー、ぼー。」(四一)「汽車や。」元気に走り廻っているうち

に、ダンボールの箱の汽車は、だんだんこわれて来た。(四〇)「こんな、あかんわ。もっとええの作ってこよう。」(四一)を残して行ってしまふ。(四二)一人で走る。ひきずっていた汽車の一片が破れ落ちる。(四三)がそのダンボールの一片を拾い上げると、端についてあるひもをひっぱって走り出した。(四四)「たこや、あんまりあがらへんな。」たこあげのつもりらしい。

【事例二〇】おみこし

廊下へ太こ、タンバリン、鈴などのリズム楽器を出しておく。

(二)がそこで太こをたたいている。「とーん、とーん、とん、とん、とん」とリズムカルである。側にいた(七五)「お祭りしようか。」と言う。(二)「うん、しよう。」(二)は太こをたたきながら歩き出した。(七五)(三三)がはしこを持ってきて(二)のうしろからついて歩く。暫くつづいたが、(三三)と(八)がダンボールの大箱を持ってきてはしこの上にのせた。(三五)「おみこしかつぎやー」と言う太この列からはなれ、テンポを早めて「わっしょい、わっしょい」と廊下を小走りしていく。T「おみこしさんが通りますね。これ(うちわ)をかしてあげましょうか」と渡す。早速(七五)がそれをもらうと、おみこしの先頭に立って、うちわをふって歩く。皆にこの得意そうな顔で、「わっしょい、わっしょい」と通り過ぎて行った。

○見方・感じ方・考え方

- (1)○○みたいなあ。(2)○○にしとこよう。

(今までに見たもの、経験したこと、やってみたいことなどが、物に接することによってあらわれてくる。)

○まとめ

身近かある遊具や材料を何かにみたててあそぶ。

【事例二一】ままごと(好きなようにしたい)

廊下の隅にごぎを敷き、女児五人がままごとをはじめめる。(三四)

「私はお母さん。」(三六)「私もお母さんしよう。」といいながら、おぜんやお茶碗を出している。(三七)は園庭から草をたくさん採って来て板の上で切りはじめめる。(三八)「(二二)ちゃん、この草使わしてや。」(三九)「ふん」(三〇)と(五〇)は、てんでに草を切っている。(三四)「切るもんじゃないかなあ」と探しているが見当らないので教師のところに来る。(三四)「先生、おげごと切るもんかして。」教師が包丁を渡すとまた続いてもう一人が来る。(三六)「先生、うちも、庖丁ちょうだい」T「あなたとこのお家、庖丁たくさんあるでしょう。」(三七)「そうか、あの人も切らはるし、うちも切りたいのや。」とまた一つ持って行った。五人のうち四人までが好きな場所で草花を切っている。残りの(三六)は一人でお茶碗をならべている。

○見方・感じ方・考え方

- (1)私の好きなようにしたい。(2)私は何々がしたい。
(3)家でさせてもらえないからやりたい。
(4)今までにしたことがあるからやりたい。

(5) おもしろそうだからやりたい。

○まとめ

自分のやりたいことを思い思いにしながら、二つこあそびをする。

〔事例二二〕ブランコの順番

一つのブランコのまわりを、数人の女児がとりまいてる。どうやら取り合いになってるらしい。(六六)「あの人ばかり使ってる。」(三四)「ぬかきはる。すこいすこい」真ん中に立っている(三六)「そんなら、順番きめようさ。」(三四)「じゃんけんしよう。」T「いいことに気がついたね。きつと上手に使えるやろうね。」数人のあいまいなじゃんけんも、(三六)のリードによって、一列にならぶことができた。

○見方・感じ方・考え方

- (1) あの人、一人で使ってる。(2) 早く使いたい。
- (3) 知っている友だちと、かわり合って使いたい。
- (4) じゃんけんで順番を決めよう。

○まとめ

遊具を早く使いたい。

〔事例二三〕毛虫つかみ

園庭のもみじの木の下に、数人の男児が頭をくっつけて何かしている。T「何してるの。」(五二)「毛虫やほれ、こんなようけ。」T「ワ

アッ、大きな毛虫ね。」(五三)「この毛虫は大将や。このちびのは兵隊やで。」T「さう、毛虫にそんな区別があるの。」(五三)「あんな先生、一番ごっつい(大きい)のは一番大将言うのやで。そやけど、そいつはなかなか見つからへんわ。」T「さされないの。」(五九)「ぼくさされたことあるわ。」(五九)「中位の毛虫はさしよるけど、ごっついのはさしよらへんぞ。」(五九)「ここをつかんだら、さされへん。」T「どんな所にいるの。」(五九)「この木にぎょうさん(たくさん)いる。」ともみじの木を指す。(五九)「柳の木には一番ぎょうさんおるぞ。みんなつかんでこよう。」みんなは走って行った。

〔事例二四〕歩くかぶと虫

(六二)、(六三)の二人が、平均台のところがかぶと虫とあそんでる。(六二)「こんどはぼくの番やぞ。」(六三)「ワアッ、おちよるかと思っただけど、うまいこと歩きよるな。」かぶと虫は平均台の上をヨチヨチ歩いている。二人は坐り込んでしまつて、それをじつとみている。(六三)「ここまで歩きよるかなあ。」(六三)「さあ、そりやちよつと無理やろな。」T「そのかぶと虫どうしたの。」(六三)「(六三)ちゃんがつって来はったのや。」T「(六三)ちゃんどこへ行かはったの。」(六三)「今、かぶと虫の家を作ってるのや。」(六三)の作っている家を見に行く。

○見方・感じ方・考え方

- (1) これ何と言う虫やろう。(2) どこにいるだろう。
- (3) たくさん捕みたい。(4) ちょっとこわいけれど捕みたい。

- (5) ここまで歩くだろうか。 (6) いるぞ。 (7) 欲しい。
 (8) 逃げないだろうか。 (9) つかみたい。 (10) 歩かせてみたい。

○まとめ

虫などを採ったり、集めたり、歩かせたりしてあそぶ。

〔五月下旬～六月上旬〕

幼児のすがた

〔事例二五〕車つくりの材料

緑組に大小の空箱をたくさん出す。(一三三)「先生、これであそんでもよいのか。」(一五七)「先生ほくませてや。」箱を積んだり、並べたりしていたが、自分ののりを持って来て箱をくつつけようとする。

(一三三)「先生、つかへんわ。トラックしようと思うのやけど。」教師セロテープを渡してやる。(一三三)「車にするのやけど、こんなのもう一つないか。」T「(一三三)ちゃんこれでどう。」(一三三)「うん、これでよいわ。ありがとう。」(一五七)「先生穴あけかして。そして針金みたいなもんほしいにや。これとおすのに。」自分の欲しいものを言ったり、素材の中から何か探し出したりしながら、何か作るのに一生懸命である。

○見方・感じ方・考え方

(1) 何か作りたい。 (2) ○○がほしい。

(3) ○○をさがしてこよう。 (4) 先生に○○をもらってこよう。

○まとめ

ほしい材料を自分でさがしたり、教師に求めたりする。

〔事例二六〕滑り台の上

(七五)「スーパーマンやー、ビューン…。」会集室の滑台で数人の子どもがあそんでいる。男児の中に女兒が一人入っている。滑らないで、一番上のさくから横へとびおりにいるのである。(二七)「ワァーッ、とべた。」(三三)「おい、もうちょっとマットをそっちの方へ離してくれ。」(四四)「ぬかすなよ。おしたらこわいやんけ。」滑り台の階段には大勢並んで自分の番を待っている。さくの上で、こわそうにもじもじしている子どももいる。

〔事例二七〕タイヤころがし

築山の滑り台のところへ登ったり、滑ったりしているうち、玄関脇に置いてある古いタイヤに気がつく。(二三)「おい、タイヤころがそか。」(二九)「ぼくもしよう。」二人はタイヤをころがしながら築山まで運び、やっとの思いで持ち上げる。(二三)「ここからころがそうか。」滑り台の上をころがそうとする。(二九)「よし、お前先にやれ、次にぼくもやるし。」(二三)「一、二、三。」タイヤは上手に遠くの方までころがって行った。(二九)「よし。えい。」今度はちよっと石ころにはずんで、近くで倒れてしまった。(二三)「ぼくの方がうまいこと行ったぞ。」(二九)「もう一回しよう。今度はじょうずにころがってくれよ。」タイヤに話しかけたりしながら、二回三回と繰り返してあそんでいる。

○見方・感じ方・考え方

- (1)高いところからとびたい。
- (2)高い所から、大きなものをころがしたい。
- (3)登りたい。
- (4)こわいけれど、やってみたい。
- (5)わたしにもできる。
- (6)スーパーマン、七色仮面になりたい。

○まとめ

高い所へ登ったり、とんだり、大きなものをころがしたりする。

〔事例二八〕積木のトンネル

積木を両側に積み重ねて、その上に板をのせる。一か所小さい入口をあけて、もぐり込んだり、くぐりぬけたりしている。その片隅に、積木を高く積み上げた囲いをし、とりでのようなものを作る。

(一七)(一六)は低く板をのせた所へもぐり込んであそんでいる。(一七)「(一六)ちゃん、はいれたけ。」(一六)「くぐれるわ。」(一七)「よし、ぼくもはいろう。」二人はばらばらになって、ごそごそもぐり込む。(一六)「おい、もうちょっと長うしようか。」(一七)「そうしよう。」

トンネルを長くする。(一六)「(一四)」「(一五)」「まぜてや。」仲間に入つてそこへもぐる。(一六)出て来る時「ウォー。」と側にいるものをおどす。側にいた(一四)(一六)(一七)三人の女兒「キャー、キャー。」と逃げまわる。(一四)「(一五)もまた同じように女兒を追っかけて喜ぶ。」

○見方・感じ方・考え方

- (1)見えないところへかくれたい。

- (2)低いところをくぐりぬけてみたい。
- (3)暗いところへ入ってみたい。
- (4)くぐれるか、ためしてみたい。
- (5)人をおどかしたり、こわがらせてみたい。

○まとめ

暗いところや低いところへ入ったり、くぐったりする。

〔事例二九〕ままごと(好きな役がしたい)

廊下にごぎを敷き、女兒(一五)、(一六)、(一四)、(一三)がままごとをはじめ。(一五)「わたしお母さんになるわ。(一六)ちゃんは姉さんになりーき。」(一六)「かなん。」(一五)「なんでや。」(一六)「姉さんやったら庖丁でごちそうつくれへんし。」(一五)「(一六)ちゃんもちよっと位庖丁で切らしたげるし。」(一六)「ふん、ほんなら姉さんになるわ。庖丁で切ってごちそうつくりするで。」(一五)「(一四)ちゃん、(一三)は子どもになりや。」(一四)「(一三)」「ふん、ふん。」満足しているのだろうか。(一五)、(一六)二人は、まないたの上で、草花をきってごちそうつくり余念がない。

○見方・感じ方・考え方

- (1)自分のやりたいことのできる役がさせてほしい。
- (2)庖丁でごちそうつくりがしたい。

○まとめ

自分のやりたい仕事のできる役をもとめる。

つづく